

## 住宅課題賞2023参加大学(学校数:40大学/55学科)

01. 足利大学 工学部 創生工学科 建築・土木分野 建築学コース
02. 茨城大学 工学部 都市システム工学科 建築デザインプログラム
03. 宇都宮大学 地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科
04. 神奈川大学 建築学部 建築学科 建築学系デザインコース
05. 関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 建築デザインコース
06. 関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース
07. 共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 建築コース インテリア分野
08. 慶應義塾大学 総合政策学部 総合政策学科
09. 工学院大学 建築学部 建築学科
10. 工学院大学 建築学部 建築デザイン学科
11. 工学院大学 建築学部 まちづくり学科
12. 国士舘大学 理工学部 理工学科 建築学系
13. 駒沢女子大学 人間総合学群 住空間デザイン学類 建築デザインコース
14. 相模女子大学 学芸学部 生活デザイン学科
15. 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 APコース
16. 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 SAコース
17. 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 UAコース
18. 芝浦工業大学 システム理工学部 環境システム学科
19. 昭和女子大学 環境デザイン学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース
20. 女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
21. 多摩美術大学 美術学部 環境デザイン学科 建築デザインコース
22. 千葉大学 工学部 総合工学科 都市環境システムコース
23. 千葉工業大学 創造工学部 建築学科
24. 筑波大学 芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域
25. 東海大学 工学部 建築学科
26. 東京大学 工学部 建築学科
27. 東京家政学院大学 現代生活学部 生活デザイン学科
28. 東京藝術大学 美術学部 建築科
29. 東京電機大学 未来科学部 建築学科
30. 東京都市大学 建築都市デザイン学部 建築学科
31. 東京都立大学 都市環境学部 建築学科
32. 東京理科大学 工学部 建築学科
33. 東京理科大学 創域理工学部 建築学科
34. 東洋大学 理工学部 建築学科
35. 東洋大学 福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科
36. 日本大学 芸術学部 デザイン学科
37. 日本大学 生産工学部 建築工学科 建築総合コース
38. 日本大学 生産工学部 建築工学科 建築デザインコース
39. 日本大学 生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース
40. 日本大学 理工学部 建築学科
41. 日本大学 理工学部 海洋建築工学科
42. 日本工業大学 建築学部 建築学科 建築コース
43. 日本工業大学 建築学部 建築学科 生活環境デザインコース
44. 日本女子大学 家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻
45. 文化学園大学 造形学部 建築・インテリア学科
46. 法政大学 デザイン工学部 建築学科
47. 前橋工科大学 工学部 建築学科
48. 前橋工科大学 工学部 総合デザイン工学科
49. 武蔵野大学 工学部 建築デザイン学科
50. 武蔵野美術大学 造形学部 建築学科
51. 明海大学 不動産学部 不動産学科 デザインコース
52. 明治大学 理工学部 建築学科
53. ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース
54. 横浜国立大学 都市科学部 建築学科
55. 早稲田大学 創造理工学部 建築学科

Residential  
Studio  
Project  
Award 2023

40大学55学科の代表作品展[建築系大学住宅課題優秀作品展]

第23回

## 住宅課題賞2023

40大学55学科の代表作品展[建築系大学住宅課題優秀作品展]  
—各々の視点の空間を生かして—

[開催日時] 2023年11月16日(木)~11月29日(水)10:00~17:30 土曜・日曜・祝日休館

[会場] ギャラリー エー クワッド 〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1 竹中工務店東京本店内1F  
(TEL) 03-6660-6011 (URL) <https://www.a-quad.jp/>



GALLERY A\*

第23回

## 住宅課題賞2023

—各々の視点の空間を生かして—



一般社団法人  
東京建築士会  
TOKYO SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

## ごあいさつ

東京建築士会は、東京都の建築士有資格者団体として、また東京都指定登録機関として建築士の業務の進歩改善と品位の維持向上を図り、近年、環境・省エネルギー・SDGs等への社会的取り組みが求められる中、本会といたしましてもこれらを配慮した取り組みを建築教育へ繋げていきたいと考えています。さらに建築文化の進展に寄与することを目的として、様々な活動を通し、建築情報を提供しながら建築士制度の普及に努めています。

平成13年より企画して参りました「住宅課題賞」入選作品展(建築系大学住宅課題優秀作品展)は、関東圏の建築系大学の住宅設計課題を各大学で学内選抜し、その優秀作品を一堂に集めた作品展です。大学ごとに異なる課題とその取り組みを見ることができます。本年も昨年に引き続き、ギャラリー エー クワッドのご協力により、同会場において実施する運びとなりました。この企画は23回目を迎え、本年の参加大学は40大学55学科となり、関東圏の建築系大学に殆ど参加いただいています。

また、建築士の少子高齢化と言われ、有資格者の高齢化が進んで来ている今、若い力を求めています。そして、AIの代替え可能である仕事とも言われています。例えば基本設計のプランニングや実施図面作成、見積もり業務などAIへ、しかし人間の感情面まで介入することはできません。顧客にとって最適な提案をすることは人間にしかできませんので、建築士がよりクリエイティブな仕事に専念できるようになるでしょう。

この「住宅課題賞」が、将来のある学生の皆様に、その楽しさと社会的な意義を深めていただくと同時に、建築士会会員をはじめ第一線で活躍されている建築士と各大学間における建築教育の情報交換及び交流の場となれば幸いです。

また、この入選作品を公開展示することにより、建築に携わる方々への新鮮な刺激と、より多くの人々に建築への理解を一層深めていただける機会になることを望んでいます。

なお、本展に際し、企画運営にご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

不安定な社会情勢や感染への不安が残る日々を共に乗り越えていくことができればと願っております。

2023年11月  
一般社団法人 東京建築士会

## 出展規定

### 【参加条件】

貴大学で行われている住宅設計課題の優秀作品を1作品推薦。

学部生、1年～3年時の作品(作成時)とする。

課題作品は、令和4年9月(前年後期)以降のものとする。

出題ペーパーと学生の作品(図面及び模型)両方を展示する。

### 【出展規定】

図面：A1版(縦841mm×横594mm、厚さ5mm)レイアウトは縦使いに統一、1枚とする。

スチレンボードなどに貼られたもので、ぶら下げられる重さのものとし、枠はなしとする。

模型：縮尺は1/50に原則統一、1点とする。

大きさは敷地含め、幅1,100mm×奥行700mmの範囲内とし、1点とする。

但し、縮尺と模型サイズ(敷地含む)が合わない場合は、規定サイズ内に収まる縮尺に調整してから搬入する。

※新型コロナウイルス感染防止対策として搬入及び搬出等、密にならないようタイムコントロールを行いますので、速やかに運ぶようご理解の上、協力していただけますようお願い申し上げます。

### 【賞】

各大学から選ばれた段階で、「住宅課題賞」入選とする。

さらに展示作品の中から「住宅課題賞優秀賞」数点を選出する。

### 【審査方法】

今年の公開審査は新型コロナウイルス感染防止の観点からオンライン+対面のハイブリッド開催とする。審査は審査員、出展者および運営者のみで開催。

### 【審査員】

審査員長：植田 実(編集者)

審査員：青木 淳(AS/東京藝術大学教授)

富田 玲子(象設計集団)

山田 紗子(山田紗子建築設計事務所)

渡邊 大志(早稲田大学創造理工学部建築学科准教授/リンクアーキテツ主宰)

司会進行：宮 晶子(日本女子大学教授/miya akiko architecture atelier)

〈住宅課題賞 入選作品〉

01 住人や地域住民との交流ができる 移住者のための住宅と店舗



モダンな7×7の骨組みから生まれる、自然と歴史が融合したコミュニティ 7m×7mを基本とした骨組みから、機能性と合理性を求めたモダニズム建築による建物で、再開発を通して新たな移住者の転入を促進する。また、渡良瀬川、足利フラワーパークといった自然豊かな土地柄、裏路地が多く存在する室町時代から続く歴史的な景観を融合させた足利市の魅力を追求したコミュニティを提供する。



清水 智矢(しみず ともや) 足利大学 工学部 創生工学科 建築・土木分野 建築学コース/3年 課題出題時学年:3年 出題教員名:小島 光晴 指導教員名:藤谷 英孝、大野 隆司、小島 光晴、渡邊 美樹

02 街に開いて、住む

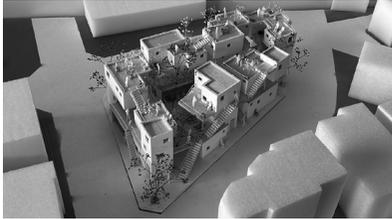


駅前求められる「都市交流機能を持った集合住宅」とは、「駅に足りないものを補う機能を持った集合住宅」と考え、駅前の待合所になる機能を持った集合住宅を提案する。複雑な敷地形状を効率的かつ快適に利用するために、敷地を細分化し、ユニットごとで構成するシステムを構築した。このシステムを利用することで、人が集まる都市機能と住民が快適に過ごせる住環境の共存を図る。



安田 紫生(やすだ しお) 茨城大学 工学部 都市システム工学科 建築デザインプログラム/3年 課題出題時学年:2年 出題教員名:遠藤 克彦 指導教員名:稲川 隆一

04 地域とつながる集合住宅



ここでは様々な世代、職業、趣味を持った人々が、それぞれ想い、想いに暮らしている。住民達が営む店舗や住居が三角の敷地の中に散りばめられ、それらを囲むようにした階段によって空間同士が結ばれている。菜園で育てられた野菜を買ったり、住民の私物から集めたさまざまなジャンルの古本を発見できたりと、住民の想いが込められたモノ達によって、人々のここちも結びつけられるだろう。



鈴木 紗来(すずき さら) 神奈川大学 建築学部 建築学科 建築学系デザインコース/2年 課題出題時学年:2年 出題教員名:中井 邦夫、曾我部 昌史、野村 和宣、立花 美緒、井原 佳代、濱口 光、山下 貴成、姜 明采 指導教員名:山下 貴成

06 あなたと誰かのための「離れ」



コロナ禍、じっくりと時間をかけて自然を取り戻すという方法で放棄された湘南国際村。アフターコロナを機に、放棄するのではなくしっかりと向き合うべきである。抽象的なシルエット・構築するエネルギーを感じられる始まりの離れを設計。通りかかった人や、興味をもち一緒につくった人たちの持つ潜在的な構築するエネルギーがそれぞれの居場所としての離れを創り、村を構成していく。



井村 加成(いむら かなる) 関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース/3年 課題出題時学年:3年 出題教員名:粕谷 淳司、小形 徹、三浦 秀彦 指導教員名:粕谷 淳司、小形 徹、三浦 秀彦

08 住まいと環境 -6人の家-



月島の路地の独特な空気感と来歴は「立面」によって構成されている。しかし現在、街の個性が再開発で失われつつある。そこで立面の構成やはたらきを読み取り、再編集しながら新築することで、路地を継承・創造・蘇生する。通常建築は平面から立面を設計するが、この建築では立面から平面を設計する。立面の現れが家と路地と街の関係をつくり、内部の立体性や場の質にも直結する。



高橋 穂果(たかはし ほのか) 慶應義塾大学 総合政策学部 総合政策学科/3年 課題出題時学年:3年 出題教員名:中川 エリカ 指導教員名:中川 エリカ、篠原 裕介

09 工学院大学八王子国際留学生寮

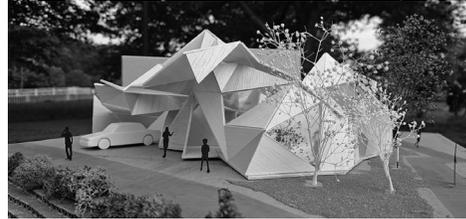


様々な国籍の人が集まる国際留学生寮は、個々に個性がありながらも相互に密接に関連し合い、全体としてうまく調和している。そんな有機的な建築であるべきと考え、個性を持った個体空間を一つの屋根でまとめるプロセスにより「建築全体として共同空間でありながら、その中には多くのプライベート空間が調和しながら存在するような『個と全が共棲する寮』」をつくることを目指しました。



松永 百合華(まつなが ゆかり) 工学院大学 建築学部 建築学科/3年 課題出題時学年:2年 出題教員名:菅原 徹 指導教員名:西森 陸雄、遠藤 新、山下 てつろう、前田 道雄、熊本 英雄、西久保 毅人、高濱 史子、山崎 社一、川嶋 貫介

11 外のある家



現代人は建築の中で人工的な光に照らされていることが多く、朝昼夜という時間の経過に疎くなっていると考え、外を「太陽という自然の光を通じて時の変化を感じる」と捉えました。太陽の温かさを感じながら起床し、日が沈むと床に就く。日光の変化と住居の機能を結び付けることで、人にとって特別な場所である家での生活を大切に過ごしていくことのできる建築を目指しました。



尾籠 優衣(おごもり ゆい) 工学院大学 建築学部 まちづくり学科/2年 課題出題時学年:2年 出題教員名:富永 祥子 指導教員名:藤本 隆明、篠沢 健太、市川 竜吾、岩堀 未来、川西 康之、小島 光晴、小林 祐太、佐藤 美輝、西田 聡、原田 智章、宮原 輝夫、安田 博道

13 新しいシモキタに住むとしたら



下北沢は入り組んだ狭い道が多く、新旧の施設が混在している地域である。そのため、集合住宅内に路地を思わせるような入り組んだ道を作ったり、住民の趣味が垣間見えたり共に楽しめたりするように工夫したりして周辺環境との融合を図った。最も特徴的なのは、外部から内部へと「緑」が続いていく設計である。人々と「緑」が途切れずに続いていくという願いを込めた計画である。



落合 咲葉(おちあい さよ) 駒沢女子大学 人間総合学群 住空間デザイン学類 建築デザインコース/3年 課題出題時学年:3年 出題教員名:田中 昭成、茂木 弥生子 指導教員名:田中 昭成、茂木 弥生子

15 まちに開いたシェアハウス



本課題は、谷中銀座周辺に建てるシェアハウスとカフェが一体化した建築である。私は、カフェを経営するシェアが住まうシェアハウスとして設計した。コンセプトとして、住民のための要素や地域の人々のための要素、来訪者などのためのさまざまな要素を谷中の小さな敷地と同じ大きさの屋根にサンドされた空間を階段で繋ぎ、心地よい空間を造ることを追求した。



太田 涼介(おおた りょうすけ) 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 APコース/2年 課題出題時学年:2年 出題教員名:猪熊 純 指導教員名:谷口 大造

10 都市居住(都市施設を併設させた新しい集合住宅のかたち)

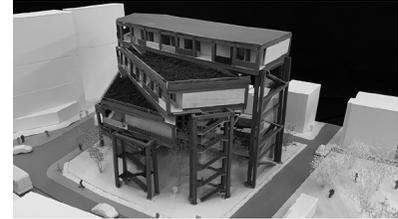


現在の代々木周辺は都心化に伴い、生活や仕事に変化し、交流不足や子供の遊び場不足が問題になっている。今回、集合住宅内に路地を組み込むことで交流スペースや子供の安全な遊び場を設ける。また、各住宅の縁側は交流スペースと隣接し、大人が子供の安全を見守り、コミュニティの活性化と異世代交流を促進する。代々木という地域の多様性を尊重しつつ、新たなまちかどの風景が生まれる。



池本 梨紗(いけもと りさ) 工学院大学 建築学部 建築デザイン学科/4年 課題出題時学年:3年 出題教員名:西森 陸雄 指導教員名:西森 陸雄、藤本 隆明、伊藤 博之、星 卓志、カーニー マイケル、アラン・バーデス、内海 彩、戸室 太一

12 『都市型共同住宅と店舗からなる、複合施設』の設計



私達はコロナ禍によって、従来の対人関係や対人距離を見直すようになりました。それにより人との接触は避けたいが孤独感を無くしたいという真反対の要求が増えました。そこで私は軸を持ったズレを用いて、人と人、空間と空間の適切な距離を保つことと同時に、現代の都市型共同住宅に必要な空間を作りました。対人距離をあまり気にしない半屋外や屋外で交流できる公共施設としました。



井上 大幹(いのうえ たいき) 国士館大学 理工学部 理工学科 建築学系/3年 課題出題時学年:2年 出題教員名:大井 鉄也、植 美雪、須川 哲也、杉山 久哉、鈴木 丈晴、高橋 元氣 指導教員名:大井 鉄也、杉山 久哉

03 「集合住宅」



宇都宮駅西側にある釜川プロムナード。夜も賑やかなオアシス通りから一本離れたこの敷地に、忙しく働く若い単身者向けの集合住宅を設計した。北側には無機質で静かな中庭を作り、南側は都市を覗き見る程度に開口を絞ることで、色や音の少ない空間を作った。特に書斎や寝室は月明かりの入る中庭に大きく開口をとり、静かに過ごせる、忙しない毎日でも静かに息継ぎが出来る住宅を目指した。



坂本 侑楽(さかもと ゆら) 宇都宮大学 地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科/3年 課題出題時学年:2年 出題教員名:大塚 陽徳、中山 大輔 指導教員名:中山 大輔、大塚 陽徳

05 シェアタウン～暮らしを拡張する建築～



あらゆる人のために無くてはならない昔ながらの商店街にできたトラスがつける大きな屋根の下で、今までの商いと新しい暮らしが共存する。互いが少しずつ混ざりあいながら、訪れる人のサードプレイスとなるような空間を創っていく。それは商店街にできた「アトリエ小路」によって、小さく、少しずつ広がっていく。



宇佐神 彩子(うさみ さやか) 関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 建築デザインコース/3年 課題出題時学年:3年 出題教員名:柳澤 潤、神永 郁子、矢野 泰司 指導教員名:柳澤 潤、神永 郁子、矢野 泰司

07 『街の居場所を作る』小商いのある住まい



本計画建物は後ろに緑豊かな環境を持つ大通りに面する崖地に建つが、大通りからは豊かな緑が見えない状況だった。室内に緑化した吹抜を設け、吹抜越しに裏の緑との連続を作り建物内外を繋いで室内に誘い込むきっかけとした。建物の2つの段差を活かし開放的な空間から落ち着いた空間へと緩やかに分けた。2階の住宅と店舗の境界も壁ではなく段差と家具で仕切り、緩やかな繋がりを意識した。



久佐賀 麻友(くさか まゆ) 共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 建築コース インテリア分野/3年 課題出題時学年:2年 出題教員名:堀 啓二、工藤 良子、草薙 彩音 指導教員名:工藤 良子、草薙 彩音

14 環境のエLEMENTと住む



「趣味×生活」をテーマに、住まい手の多趣味に特化した複数の部屋を持つ家をデザインしました。玄関はなく外部スロープを通じて各部屋が結ばれ、自由に部屋を巡りながら気ままに過ごすことができます。同時に、庭レベルは友人との共有スペースとして配置し、仕事場やプライベート領域を浮かして配することで、家族や友人と楽しむだけでなく、個人時間を大切にできる住空間を実現しました。



小嶋 花都季(こじま かつき) 相模女子大学 学芸学部 生活デザイン学科/3年 課題出題時学年:2年 出題教員名:池田 雪絵 指導教員名:池田 雪絵

16 地域と交換する集合住宅～もらい・あたえる恒常的地域をつくる～



佃にみられる表出は住民の気配を感じさせ、町に緊張感を作っている。家の断面を現しにすることで町に人影を露出させ、緊張感から感じる気持持ち悪さを劇的に昇華することで、町に蔓延る緊張は緩和され新たな豊かさを得る。



細田 雅人(ほそだ まさと) 芝浦工業大学 建築学部 建築学科 SAコース/3年 課題出題時学年:3年 出題教員名:小菅 瑞香 指導教員名:谷口 大造

住宅課題賞 入選作品

17 本好き家族の郊外住宅



今日の住宅の「廊下」は暗く、部屋を繋ぐだけの空間となっている。本計画では、家族全員本好きであることから、廊下に本棚を配置し、部屋を移動する通路は勿論、読書空間として、「廊下」に新たに機能を持たせたいと考えた。そのため、各部屋を繋ぐように回廊と中庭を設け、回廊の外周部に本棚を配置することで、家族の活動、気配を感じられる本に囲まれた生活空間を創り出した。



**丸山 泰知**(まるやま たいち) 芝浦工業大学  
建築学部 建築学科 UAコース/3年  
課題出題時学年:2年  
出題教員名:前田 英寿  
指導教員名:上原 秀文、前田 英寿

19 暮らしたい高円寺をつくる



花でつながる道でつながる集合住宅。住人、街の人、高円寺を訪れる人、公園、商店街…といった散りばめられた様々な要素に、つながりを持たせたいと考えた。そこで人々の暮らしや街を彩る「花」を取り入れ、隙間や空間が生み出した「道」を活用する。この計画で、ここで暮らす人々や風景につながりを持たせ、人々が主体となって街をつくりあげていくことを期待する。



**佐藤 利真**(さとら りつみ) 昭和女子大学  
環境デザイン学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース/3年  
課題出題時学年:3年  
出題教員名:田井 勝馬、雨宮 和彦、萬玉 直子、杉浦 久子  
指導教員名:田井 勝馬

21 << 風景の中の住空間 >> ~くつろげる週末住宅~



初めてこの土地を訪れた時、自然があるだけでその土地の持っている良さや自然の美しさを生かされておらず、自然と人の関わりがあまりないと感じた。そこで中々の境界を曖昧にし、自然の見え方に工夫を加えることで、人が鍾水の自然に繋がるような空間を目指した。自然があるだけでなく、自然と触れ合い、感じながら、自然と共に過ごすことのできる週末住宅を提案する。



**菊田 実優**(きくた みつあき) 多摩美術大学  
美術学部 環境デザイン学科 建築デザインコース/2年  
課題出題時学年:1年  
出題教員名:田淵 諭  
指導教員名:湯澤 幸子、橋本 潤、木田 裕子、清水 菜々緒

23 集合住宅 多様な住戸の集合による居住環境の設計



何かのめぐり合わせで出会った住民が、家族のような、友達のような、一方でご近所さんのような、様々な関わり方ができる場所となっている。日常生活の中でも他人を感じられるような空間を作ることコンセプトとし、床と天井の高さを各部屋ごとにずらすことで空間をゆるやかに分け、そこで生じたずれを採光用とコミュニケーション用の2つの要素として利用できるように設計した。



**石井 美沙**(いしい みさ) 千葉工業大学  
創造工学部 建築学科/3年  
課題出題時学年:2年  
出題教員名:遠藤 政樹  
指導教員名:武田 清明

18 ハレとケのあいだにある家 一分断ではなく包括する建築



担当する施主の性質を満足させつつ、日常の中でも非日常を感じられる中間領域を設計した。住宅と野球という相反する要素の中で、各選手の動線や役割から共通項を導き、二つの要素に親和性を持たせた。その上で敷地内外をつなぎ、家族と野球チームの動線が変わる中間領域を住宅に落とし込んだ。住宅における一つの秩序が、野球一家の生活をさらに豊かにすることを期待する。



**糸久 政喜**(いとひさ まさき) 芝浦工業大学  
システム理工学部 環境システム学科/3年  
課題出題時学年:3年  
出題教員名:山岸 一也、柴田 作  
指導教員名:山岸 一也、柴田 作

20 住宅計画「まちに住まう」



二世帯が住む店舗併用住宅の店舗空間をリノベーションして、街の人々が集う住宅を設計。引退した経営者が地域とのつながりを維持しつつ、地域のコミュニケーションの場として再活用を目指した。1Fの店舗部分だった空間を地域のコミュニティ空間に使用することにより、内部の様子がうかがえ、出入りしやすい開放的なデザインにした。2Fは寝室や水回りの他、各個人の趣味の場が設けられる。



**佐久間 千尋**(さく まちひろ) 女子美術大学  
芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻/4年  
課題出題時学年:3年  
出題教員名:松本 加恵、高原 真央  
指導教員名:松本 加恵、高原 真央

22 「都市を読み、住宅を構想する」-「西千葉」に参加する併用住宅の設計-



西千葉の「文教地区」という特性を生かして、子供から大人までの幅広い年代の想像力や遊び心を育てられる場所が重要と考える。また、西千葉には交流する場所が少ないため、幅広い年代が関心を持ち、楽しみ、交流できる絵画を使った「絵画教室」を提案する。建物にはカーテンを使うことで建物内が見え隠れし、まちの人々の興味を引き立たせ、まちとのつながりを強める。



**吉田 キラリ**(よした きらり) 千葉大学  
工学部 総合工学科 都市環境システムコース/3年  
課題出題時学年:2年  
出題教員名:大川 信行、丁 志映  
指導教員名:大川 信行

24 筑波大学学生宿舎リニューアル事業



この作品は既存の豊かな木々と植物を使い大きな庭園のような宿舎エリアをつくることをコンセプトとしている。ペDESTリアンを遊歩道としてエリア全体に張り巡らし地域の人々や宿舎外に住む学生たちが入りやすい開かれた場を目指した。それにより幅広い交流を生み出し学生たちの新たな発見や学びをもたらす宿舎エリアとなる。



**田中 弥呼**(たなか みこ)、**佐々木 由**(ささき ゆう) 筑波大学  
芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域/3年  
課題出題時学年:3年  
出題教員名:花里 俊廣  
指導教員名:加藤 研

25 樹木と家 領域と境界を考える

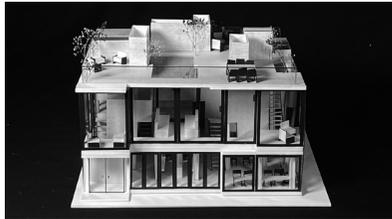


かつて鶴沼は、川が蛇行氾濫を繰り返し、沼が発生した。そこに生態系が作られ、やがて鶴が来るようになったことが、鶴沼の地名の由来となっている。別荘地の開拓とともに、失われた場所の歴史を人、隣接するコミュニティスペース、保存樹木、家の領域と境界を考えながら再興する。



**松井 京一**(まつい きょういち) 東海大学  
工学部 建築学科/3年  
課題出題時学年:2年 出題教員名:梶浦 暁  
指導教員名:河内 一泰、山崎 俊裕、岩崎 克也、井上 玄、山口 紗由、山下 貴成、佐屋 香織、白子 秀隆、梶浦 暁

27 シェアハウス/〇〇が集まって住む家

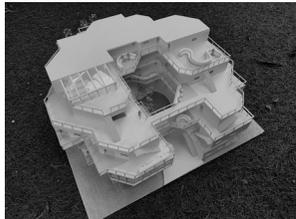


建築士たちが互いにスキルやアイデアを共有しつつ新たな発想を生み出す事ができ、楽しく生活を共有する事ができる住まいを計画。3m×3mのBOXを平面的、断面的に少しずつずらす事で広さや高さの異なるつつもボリュームと連続性のある空間としている。シンプルで余白のあるこの空間は住む人々によって変化していく可能性を秘めており、住む人だけでなく周囲の人の心も弾ませることができる。



**田戸 あい**(たど あい) 東京家政学院大学  
現代生活学部 生活デザイン学科/3年  
課題出題時学年:3年  
出題教員名:原口 秀昭  
指導教員名:原口 秀昭

29 集合住宅の設計



高齢者の孤独死や育児放棄など、今も絶えることのないこれらの問題は、身近な人に頼れる環境であった結果は変わっていたのではないかと捉えられる。今の時代、誰もが自分の考えや生き方を社会に発信できるにも関わらず、多くの住宅では個人と社会は家族の空間を狭くすることにより関係が薄くなっているのかもしれない。個人を家族の内側から開放し社会とつながる住宅を提案する。



**西村 風香**(にしむら ふゆか) 東京電機大学  
未来科学部 建築学科/3年  
課題出題時学年:2年  
出題教員名:山田 あすか  
指導教員名:井上 康

31 名作から考える

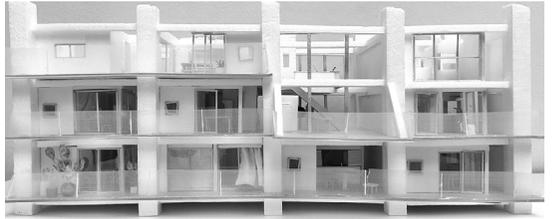


「岡山の住宅」から学ぶ。個人が外の社会と直接接続する図式はドライな家族像が浮かぶ一方で、個人が積極的に社会と向き合う姿を空間化したようにも捉えられる。今の時代、誰もが自分の考えや生き方を社会に発信できるにも関わらず、多くの住宅では個人と社会は家族の空間を狭くすることにより関係が薄くなっているのかもしれない。個人を家族の内側から開放し社会とつながる住宅を提案する。



**月待 友希**(つきまち ゆきよ) 東京都立大学  
都市環境学部 建築学科/3年  
課題出題時学年:3年  
出題教員名:秋山 怜史、三井 嶺、小泉 雅生、伊藤 喜彦  
指導教員名:小泉 雅生

26 大島四丁目団地部分更新計画



対象地には様々なスケールの分断があり、住人どうしのコミュニケーションを阻むとともに戸外の環境を居心地の悪いものになっている。そこで各住戸にトオリワを設け、公私を連続的につなぐとともに、住人の生活が溢み出る空間をつくる。さらに、規模や用途の違うパブリックスペースを住棟の適所に配置する。生活の一部を通して住人どうしや住棟内外の人々がつながり合うことを期待する。



**鈴木 陽介**(すずき よすけ) 東京大学  
工学部 建築学科/3年  
課題出題時学年:3年  
出題教員名:大月 敏雄 指導教員名:大月 敏雄、松田 雄二、佐藤 淳、李 ヨンガン、有井 淳生、川嶋 貴介、千葉 元生、手塚 由比

28 住宅2 第2課題



10000平米の広い敷地と、1000平米の生活空間を、ソウと人が共有する住宅を提案する。チェンライから北東へ郊外のメコン川支流が走る山間の敷地に、広い敷地を生かしたなりわいと生活の場が一体となった住宅を設ける。ソウと人の触れ合い方として、慣習である隣に立つや背に乗るだけではなく、日々ソウの目線の高さを見たり、ソウと触れ合う場所を設ける設計をおこなった。



**豊福 悠**(とよふく ゆう) 東京藝術大学  
美術学部 建築科/3年  
課題出題時学年:2年  
出題教員名:青木 淳、坂板 留五  
指導教員名:青木 淳、坂板 留五、笹田 佑志

30 風土の家



4面に大きな窓を設け等々力深谷の穏やかな谷沢川の流れや野鳥の声、各地から水が湧き出ている大都會のオアシスを感じ、楽しむ空間となるよう設計した。形や用途が異なる4つのボックスを重ね合わせることで1つの住宅となる。ボックスとボックスをずらし重ねることで生まれるスリットからは光が差し込み視線の抜けや時間によって違う表情が楽しめる風土を感じられる住宅を提案する。



**小林 萌々花**(こばやし ももか) 東京都市大学  
建築都市デザイン学部 建築学科/3年  
課題出題時学年:2年  
出題教員名:手塚 貴晴  
指導教員名:手塚 貴晴

32 根津に住む



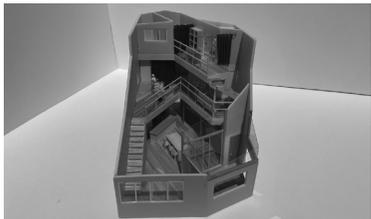
昔、藍染川が流れていたへび道には、曲線のできた道という大きな特徴がある。この土地に、住宅の基であるハコ型の家を建ち並べると、おのずと余白が現れる。余白には、ヒト、動物、植物、風、光などの多くが介入することができ、大きな可能性がある。そこで、この余白をデザインすることで、住みよい住空間と地域と関わりのある住空間を設計することができると考えた。



**小川 智也**(おがくぼ ともや) 東京理科大学  
工学部 建築学科/2年  
課題出題時学年:3年  
出題教員名:石橋 敦之、船木 幸子、池田 雪絵、伊藤 孝仁、小林 佐絵子、熊谷 亮平 指導教員名:船木 幸子

住宅課題賞 入選作品

33 私の住まう将来の住宅



人には自らを保つカタチがあり、人同士が向き合うときにそのカタチ同士の間に「はざま」が生まれる。その「はざま」は人々が共有する場にも対立する場にもなる。住宅での「はざま」をリビングと捉え、その可変的な「はざま」の空間を住宅内に行き渡らせた。家族との「はざま」、地域住民との「はざま」を感じることで、人との関わり合いの中に生まれる自身を見つめる住宅である。



小沼 優介(こぬま ゆうすけ) 東京理科大学 創域理工学部 建築学科 / 2年 課題出題時学年:2年 出題教員名:岩岡 竜夫、森 清敏、中畑 昌之、いしまるあきこ、牧 祐子、岩下 泰三、高柳 誠也、堀越 一希 指導教員名:いしまるあきこ

35 「4人の家」から「新しい2人の家」へ



第1課題(住宅の設計)では、長方形の敷地に住宅を斜めに振って配置することで、奥まで光が差込むように設計した。第3課題(改修)では、車椅子ユーザーの妻と夫がふたりで快適に暮らせるように、光の取り入れ方に加え、スムーズな動線を確保した。さらに、吹き抜けを設けることによって、開放的な空間にするとともに、視線が通り、お互いの存在を感じられるように設計した。



清水 まひろ(しみず まひろ) 東洋大学 福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン学科 / 2年 課題出題時学年:2年 出題教員名:内田 祥士、名取 発、柏樹 良 指導教員名:内田 祥士、名取 発、柏樹 良、小林 進一、井上 見良、窪川 勝哉、佐々木 龍郎、船木 幸子、高橋 直子

37 街に開く集住体ー神楽坂の集合住宅



都市と住空間に混ざる緑空間。植物の植生によって生まれる空間に人々の生活が織り交ざっていく。緑空間が住み開きのきっかけとなり、多様な生活が溢れていき、都市と住空間の境界が曖昧になり繋がっていく。都市緑化の出発点となる集合住宅を提案する。



柴田 龍之介(しばた りゅうのすけ) 日本大学 生産工学部 建築工学科 建築総合コース / 3年 課題出題時学年:3年 出題教員名:北野 幸樹 指導教員名:山岸 輝樹

39 3m×3mの豊かな住まい



狭い空間でも豊かに暮らすため、視界を遮る「もの」を取り除き、厚みのある「床」を設けた。深さの異なる床は柔らかく空間を区切り、つないでいる。その床には、人の生活に合わせて空間を振り進め、生活の全てが埋め込まれている。下半身は部屋の中、上半身は開かれた空間が広がっているため、部屋が狭くても広い空間を感じられる。半身だけの住居は、暮らしをより豊かに彩る。



青木 花梨(あおき かりん) 日本大学 生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース / 3年 課題出題時学年:2年 出題教員名:小川 真樹、齋藤 由和 指導教員名:小川 真樹、齋藤 由和

34 「街のなかの家、家でつくる街」



住まうことに対して社会的に繋がることが求められているが人の心は複雑で同時に一人にいることも求めている。1階の地域の人と交流する開放的な土間空間から回遊するスキップフロアで様々な場所が出現し、フロアレベルが上がるにつれて個人のための住宅に変化する。個人を大切にしつつ家族とも街とも分断することない住宅を目指した。



倉橋 里奈(くらはしりな) 東洋大学 理工学部 建築学科 / 3年 課題出題時学年:2年 出題教員名:篠崎 正彦 指導教員名:伊藤 暁

36 これからの集合住宅



今の現代社会では、人と人との冷たさが社会問題になっているため、新しい時代の若者から徐々にこの社会問題を解決して行きたいと私は思う。今回一人暮らしを始めたばかりの若者向けの集合住宅を設計した。一人暮らしを始めたばかりの若者はきっと不安や孤独を感じるので、私はこの集合住宅で暮らす若者が家族のように過ごして、家族でしか感じられない温もりを都市圏で奮闘する若者に届け、一緒にこの辛い階段を乗り越えて欲しいと思う。



王 楚諾(おう そだく) 日本大学 芸術学部 デザイン学科 / 3年 課題出題時学年:3年 出題教員名:東 利恵 指導教員名:東 利恵

38 8mキューブの空間を構成する

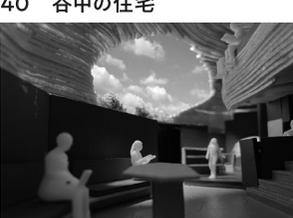


8×8mの正方形内に四角形を無数に重ね合わせ、つながりを持った立面を構成する。立面の四角形の重ね合わせによってできたスリットにより、人の動きを感じつつも外部空間と遮断した空間を構成していく。そして、立面とリンクした立体的にも重なり合う様々な変化を持たせた、コントラストのある空間を構成していく。



西山 大地(にしやまだいち) 日本大学 生産工学部 建築工学科 建築デザインコース / 3年 課題出題時学年:2年 出題教員名:篠崎 健一、長沖 充 指導教員名:篠崎 健一、長沖 充

40 谷中の住宅

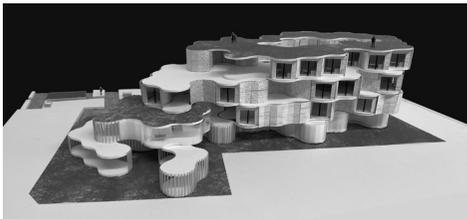


建築は本来部材によって作られるものであるが、いつの日からか建築の形態が部材に依存してはいないだろうか。植物が土をはじまりとし、環境により成長するように、建築も敷地の周辺に影響を受けながら形態を構成する。一方的な形態と周辺環境との関係性を解こうと試みた住宅である。



鈴木 竜雅(すずき りゅうが) 日本大学 理工学部 建築学科 / 2年 課題出題時学年:2年 出題教員名:井本 佐保里、田所 辰之助、飯山 千里、齋藤 由和、菅原 雄一郎、須藤 剛、高池 葉子、許 光範 指導教員名:飯山 千里

41 地域とつながる都市型集合住宅



集合住宅には賑やかな声、落ち着く声、子供の声、川の声など多様な人の声で溢れている。しかし、現代コロナ禍を経たコミュニティは内で完成されてしまい、外に出ようという行為が見られにくくなった。現代の住宅も利便性と効率を求め、住宅の中で完結してしまっている。内に秘められた人の声が自然と溢れ、個人から始まりやがて地域全体へとつながっていく集合住宅を提案する。



若松 瑠苒(わかまつりゅうご) 日本大学 理工学部 海洋建築工学科 / 3年 課題出題時学年:2年 出題教員名:山田 晶子、奥村 梨枝子 指導教員名:奥村 梨枝子

43 シェアハウスの設計



地域に開けた場、個室、みんなの居住空間を、垂直に貫く「あなぐら」でつないだ。地上階は外へと開かれ、あなぐらへの入り口になる。二階はあなぐらの居室、グレーチングの床が天窓からの光を運ぶ。三階はあなぐらの周りを生活の拠点とする。広がり、狭まり、穴が空いた空間に、下がり、上がり、集まり、入る。暮らしのなかの地域のつながり、生活の繋がりを、あなぐらを通して見出した。



寺内 慎之介(てらうち しんのすけ) 日本工業大学 建築学部 建築学科 生活環境デザインコース / 2年 課題出題時学年:2年 出題教員名:足立 真、麻生 征太郎 指導教員名:足立 真、麻生 征太郎

45 都市部に建つ戸建住宅

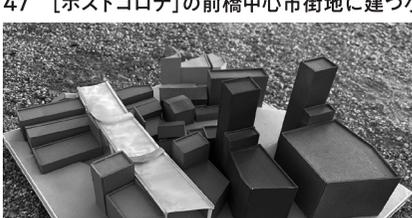


ここは絵本作家の姉妹が住む家。用途ごとに分けられた空間を、さまざまな高さで組み合わせることによって、限られた敷地を有効活用了。ガラス張りの壁からは、庭に広がる木々の緑を味わえる。また、真っ白な壁は、絵本作家にとって最高のキャンパスである。姉妹が暮らしにくいなかで、庭の木々の成長とともに、真っ白な壁には絵の具の色が溢れ、さらに豊かな場所へとなるだろう。



望月 優里(もちづき ゆうり) 文化学園大学 造形学部 建築・インテリア学科 / 2年 課題出題時学年:2年 出題教員名:谷口 久美子、渡邊 裕子、久木 章江、種田 元晴、奥村 誠一、趙 晟恩 指導教員名:種田 元晴

47 [ポストコロナ]の前橋中心市街地に建つ小型店舗併用住宅群



地域で完結する建築。周辺環境の要素を「持つてくる」ことで新たな集合住宅をつくる。集客力のありそうなヒトやモノを外から持つてくる地域おこしはありふれすぎていて、それはこの前橋中央通り商店街も例外ではない。そこであえて、敷地のいちばんそばにあるものを持ってきて集めた。完全な新築だが、もともとある形やファサードをトレスした、陳腐でない新しい集合住宅の提案。



谷下 萌夏(たにした もえか) 前橋工科大学 工学部 建築学科 / 3年 課題出題時学年:3年 出題教員名:若松 均、石黒 由紀、高塚 章夫、平林 政道 指導教員名:若松 均、石黒 由紀、高塚 章夫、平林 政道

42 まちを引き込む学生寮



五感に寄り添う自然な形を意識しながら、人、建築、自然の三要素が一体となった建築を目指した。地上には、地形を盛り上げ植栽を植えることにより、自然に人を誘導する空間を計画した。地下には、曲面と造形で人を包み込むような空間を計画した。心と感覚はAIには無い私たち人間の魅力である。この作品は人、建築、自然との調和を図り、私達人間の豊かさを象徴するものになったと思う。



西田 智陽(にしだともあき) 日本工業大学 建築学部 建築学科 建築コース / 2年 課題出題時学年:2年 出題教員名:小川 次郎、小山 大吾、土佐谷 勇太 指導教員名:小川 次郎、小山 大吾、土佐谷 勇太

44 街とくらす、21人のための家



雑司が谷の細く枝分かれした路地に溢れる、住人の内面を映し出す「物」に着目した。住宅を構成する大屋根、住戸、構造壁、腰壁・垂壁から、住民の所有物まで多様なスケールが一体化し、どこまでが建築で物かという境界をなくす。住人は構造壁が作る入角、腰壁と垂壁が作る空間に自分の領域を認識し、物を置くことでテトリーを広げ、同じ屋根の下に暮らす隣人や街の気配を感じて暮らす。



武田 恵実(たけだめぐみ) 日本女子大学 家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻 / 3年 課題出題時学年:2年 出題教員名:東 利恵、稲垣 淳哉、江尻 憲泰、片山 伸也、川島 真由美、佐野 もも、武田 清明、針谷 将史、宮 晶子 指導教員名:武田 清明

46 〇〇と暮らすアフターコロナにおけるものづくりのための職住一体型集合住宅



住居空間にトの道の通した時、暮らしを飾るようになるだろう。サブカルチャーが集まる下北沢でウチが開けた時、彩りのある住居が連なってゆくだろう。住む暮らしは、「表現する暮らし」へと変わってゆく。



池田 楓(いけだ かえで) 法政大学 デザイン工学部 建築学科 / 3年 課題出題時学年:3年 出題教員名:山道 拓人 指導教員名:山道 拓人、下吹越 武人、御手洗 龍、山田 紗子

48 CARAVANSERAI



計画地は前橋の商店街の玄関口に位置し、広瀬川が隣接している。隣地には集合住宅が建設され、その場との調和も求められた。「行き会い、共住し、また散ってゆく」ような「CARAVANSERAI」は常に変容し続ける場であってはならないと考える。提案する集合住宅では、そこにいる誰もが「さすらい」しながら、何かを頼りに己の居場所を追い求められるような場である。



森 悠陽(もり ゆうひ) 前橋工科大学 工学部 総合デザイン工学科 / 3年 課題出題時学年:2年 出題教員名:駒田 剛司 指導教員名:駒田 剛司

49 「楽しんで棲む」ための集合住宅



計画敷地に教会があり、その理念や活動が地域にとって必要な存在であると思ったことから、教会の機能を継承することにした。キリスト教には共食の文化があることから子ども食堂を教会活動の一つとし、住人と子供たちが共に食事をすることで新たな家族空間を創造する。その活動は街にとって新たな風景となり、住人も街の人も、キリスト教信者も信者でない人も新しい暮らし方ができる。



**鹿野 結恋**(しかの かれん) 武蔵野大学  
工学部 建築デザイン学科 / 3年  
課題出題時学年:3年  
出題教員名:伊藤 泰彦、市川 竜吾、岡田 雅人、松尾 宙、藤江 保高  
指導教員名:松尾 宙

51 「今日的な共用住宅(シェア住居)」



コミュニケーションを誘発する家 SNSの普及により人とのつながりが広く薄くなっている中で、直接的で田舎のようなコミュニケーションが生まれるような集合住宅の空間を考えた。コミュニケーションを誘発するためのオープンスペースを設けつつオープンスペースへのアクセスがしやすくなる動線、家としてのプライバシーの確保、近隣住人への配慮等を考えた。



**島崎 隼輔**(しまざき しゅんすけ) 明海大学  
不動産学部 不動産学科 デザインコース / 3年  
課題出題時学年:3年  
出題教員名:鈴木 陽子、塚原 光顕  
指導教員名:鈴木 陽子、塚原 光顕

53 更新する学生寮



新しいものが数多く生まれるこの世の中で伝統や文化が廃れているのが現状である。伝統や文化は、当時の時代・社会だからこそ生まれたものであり、伝統は昔の人が大切に守ってきたものである。一度失われたら取り戻すことはそう簡単ではないと思ひ、学生たちが自分達の手で伝統を守っていく学生寮を提案する。



**藤村 圭央莉**(ふじむら かおり) ものづくり大学  
技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース / 4年  
課題出題時学年:3年  
出題教員名:岡田 公彦  
指導教員名:朽木 宏

55 早稲田のまちのキャンパス・プロポーザルー早稲田のまちに学び、早稲田のまちに住むー



神社・公園・住宅街という3つの要素の狭間に生まれる空間。敷地に対して各領域を定義し、3枚の壁により空間的な「分割」を行う。壁で隔られた空間の内部は中間領域として、人々の居場所となる。夏祭りが近づくと、ここは祭りの練習や準備が行われる地域の集会所として機能する。緩やかに進む日常生活の中で、神社の祭りという非日常の出来事が人と人とを繋ぎ、彼らと街をつなぐきっかけとなる。



**荒井 百音**(あらい もね) 早稲田大学  
創造理工学部 建築学科 / 3年  
課題出題時学年:2年 出題教員名:有賀 隆、中谷 礼仁、宮本 佳明、市川 均、小岩 正樹、矢口 哲也、野田 明宏、小林 恵吾、小松 萌、王 薪鹏、吉江 俊  
指導教員名:小岩 正樹、小林 恵吾

50 敷地選択型 住宅プロジェクト ---住宅+aの新しい可能性を提案する---



土木という脱人間尺度な物に寄生するような住宅を設計。規格化された住宅様式に対し、暮らしの幅を広げる。宅地造成により生じた既存擁壁をリノベーションし、住宅を増築。人の動きやどまりを生む断面、壁や素材と屋根のかかり方を考え、それらを住宅の一部として再構築した。擁壁という問題を問題のまま残しながら作られた「歪んだ住宅」は、規格化にはない豊かさや生活の厚みを生む。



**吉村 優里**(よしむら ゆり) 武蔵野美術大学  
造形学部 建築学科 / 4年  
課題出題時学年:3年  
出題教員名:布施 茂、青木 弘司、三幣 順一  
指導教員名:布施 茂、青木 弘司

52 集住の現在形ー明治大学国際混住学生寮



現在の集合住宅は均質に並べられ、共用分は最低限に利用する道として認識されてしまい交流の場がないのはもちろん、お隣さんの顔まで知らないことが多くある。敷地周辺がまさにその状況であり、商店街や集合住宅があるが交流がない状態である。グリッドをずらすことで出来る空間によって、ふと腰をかけたたり、壁に寄り添ったりする溜まり場ができそこから交流が生まれていく。



**部谷 ひかり**(ひだに ひかり) 明治大学  
理工学部 建築学科 / 3年  
課題出題時学年:3年  
出題教員名:山本 俊哉  
指導教員名:廣瀬 隆志

54 自然のなかの居住単位



人間にとって都合の良い空間を作るために自然を改変するのではなく、今ある自然の状態に応じて、隙間を縫うようにして建築を作る。自然の中で歩いたり、留まったりする中で様々な体験を誘発し、感性を刺激するような空間を建築内外で作る。



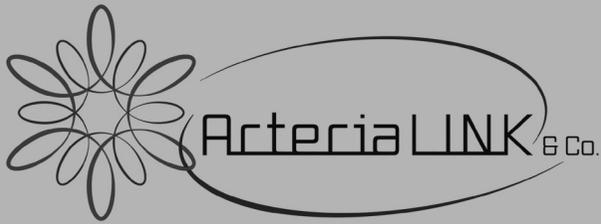
**戸松 蒼生**(とまつ あおい) 横浜国立大学  
都市科学部 建築学科 / 3年  
課題出題時学年:2年  
出題教員名:藤原 徹平  
指導教員名:藤原 徹平、南 俊允、萬代 基介、西川 日満里

40大学55学科の代表作品展[建築系大学住宅課題優秀作品展]  
**第23回 住宅課題賞2023**  
ー各々の視点の空間を生かしてー

主催：一般社団法人 東京建築士会  
企画：東京建築士会 事業委員会  
委員長:佐々木 龍郎 副委員長:木下 庸子  
委員:大竹 由夏 笠井 香澄 城戸崎 和佐 高橋 章夫  
富永 祥子 中村 晃子 濱野 裕司 藤江 和子  
藤原 徹平 降旗 千賀子 宮 晶子 吉野 弘  
渡邊 大志  
事務局:鴛海 浩康 梅津 洋佑 鈴木 絢矢乃  
後援：公益社団法人 日本建築士会連合会  
一般社団法人 東京都建築士事務所協会  
一般社団法人 日本建築学会 関東支部  
公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部  
株式会社 新建築社  
株式会社 エクスナレッジ  
協賛：株式会社 建築資料研究社  
日本住宅 株式会社  
株式会社 穴吹工務店  
Arteria LINK 株式会社  
株式会社 市浦ハウジング& プランニング  
環境・省エネルギー計算センター  
大成建設 株式会社  
株式会社 長大  
飛鳥建設 株式会社  
会場構成：濱野 裕司(株式会社 竹中工務店)  
協力：公益財団法人 ギャラリー エー クワッド

[ カタログ ]  
企画・編集・発行：一般社団法人 東京建築士会  
デザイン・制作：株式会社 ケシオン

一般社団法人 東京建築士会  
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町11番1号 富沢町111ビル5階  
[TEL]03-3527-3100(代) [FAX]03-3527-3101  
[E-mail]event02@tokyokenchikushikai.or.jp  
[URL]https://www.tokyokenchikushikai.or.jp



きづき、きずく。

建築系学生採用アウトソーシング／コンサルティング

ArteriaLINK株式会社 | ArteriaLINK & Co.

〒164-0001  
東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパーク2F  
TEL: 03-5005-0670  
URL: <https://arterialink.co.jp/>



すべてをつくる × 暮らしをつくる

ANABUKI 穴吹工務店



ハウジング分野の専門家集団として  
人間居住の向上に貢献する

ICHIURA  
HOUSING & PLANNING

株式会社市浦ハウジング&プランニング

本社 113-0033  
東京都文京区本郷1丁目28-34  
tel.03-5800-0901



省エネ革命で地球を幸せに  
環境・省エネルギー計算センター  
Center for Environment and Energy Conservation



運営会社：株式会社 HorizonXX (ホライズン)  
本社 | 〒171-0022 東京都豊島区南池袋3丁目15-11 TEL: 03-5944-8575  
FAX: 03-5944-8587  
省エネ研究開発センター | 〒210-0006 川崎市川崎区砂子1-10-2 TEL: 044-221-5151  
FAX: 044-221-5153

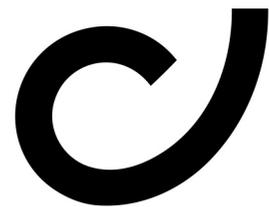
面倒で複雑な省エネ計算はすべてお任せください！

省エネ計算	住宅性能評価	CASBEE
BELS / ZEB / ZEH	東京都環境計画	フラット35
長期優良住宅	避難安全検証法	補助金申請サポート

大成建設  
TAISEI

For a Lively World

<https://www.taisei.co.jp/>



人・夢・技術

株式会社 長大  
<https://www.chodai.co.jp/>

New Business Contractor



解決のピースは  
トビシマにあります。

140th  
ANNIVERSARY

スマートな未来へ New Business Contractor  
飛島建設



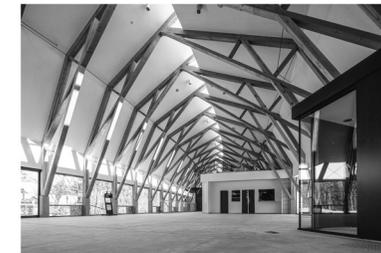
ウッドデザイン賞受賞



JAPAN WOOD DESIGN  
AWARD 2021

道の駅たのはた  
思惟の風

設計: 古谷誠章+NASCA



ないものを創りだす。



日本住宅株式会社

マイナビ・日経 2023年卒 大学生就職企業人気ランキング 東北エリア 第2位

日本住宅株式会社

本社：〒020-0838 岩手県盛岡市津志田中央1-3-28  
本部：〒100-6317 東京都千代田区丸の内2-4-1 丸の内ビルディング17F  
<https://www.nihonjutaku.co.jp/>

# 受講生ファーストの 日建学院

日建のここがすごい  
**POINT 5**



夢への近道、  
見つけた!

日建学院  
1993年~2022年の合格実績

1級建築士 (全国累計146,291人\*)

**76,529人**

当学院の1級建築士  
合格者占有率 **52.3%**

この30年間に誕生した1級建築士の  
半数以上が日建学院の受講生です!

※上記全国累計は(公・財)建築技術教育普及センター発表試験結果(1993~2022年)のデータです。

POINT  
01

1993年から2022年の  
1級建築士合格実績

この30年間に誕生した  
1級建築士の半数以上が  
日建学院の受講生です!

1級建築士 合格実績  
**No.1**

POINT  
02

おかげさまで10冠達成!  
外部調査機関調べ

総合満足度  
顧客満足度 **No.1**

建築士講座

- リピーター満足度
- 使用教材の満足度
- カリキュラム充実度
- 価格の満足度
- 設備体制学習環境の充実度
- 職員の対応サポート力
- 担当者の最適なコース提案力
- 感染対策の満足度

日本マーケティングリサーチ機構 調査概要:2021年9月期\_顧客満足度調査

POINT  
03

私も日建学院で1級建築士を  
取得しました!



代表取締役 馬場 栄一

だからこそできる受講生ファースト!  
コンプライアンスを重視し、  
徹底的にサポート!

1992年 3月 早稲田大学理工学部建築学科卒業  
1992年 3月 大成建設株式会社入社  
※在職中に1級建築士/  
1級建築施工管理技士 取得(日建学院 進学)  
2000年 1月 株式会社資料研究社/日建学院に入社  
2007年 7月 代表取締役社長 就任  
現在に至る

POINT  
04

大学生の1級建築士合格者の多くが日建学院生です!

九州工業大学 <b>占有率 70.0%</b> 日建学院合格者数 7名/合格者数10名	大阪市立大学 <b>占有率 66.7%</b> 日建学院合格者数 22名/合格者数33名	日本女子大学 <b>占有率 64.3%</b> 日建学院合格者数 9名/合格者数14名
関東学院大学 <b>占有率 58.3%</b> 日建学院合格者数 7名/合格者数12名	滋賀県立大学 <b>占有率 57.1%</b> 日建学院合格者数 8名/合格者数14名	大分大学 <b>占有率 55.6%</b> 日建学院合格者数 10名/合格者数18名
大阪大学 <b>占有率 55.2%</b> 日建学院合格者数 16名/合格者数29名	東京大学 <b>占有率 54.5%</b> 日建学院合格者数 12名/合格者数22名	名古屋大学 <b>占有率 54.5%</b> 日建学院合格者数 12名/合格者数22名
日本工業大学 <b>占有率 52.6%</b> 日建学院合格者数 10名/合格者数19名	東京工業大学 <b>占有率 50.0%</b> 日建学院合格者数 13名/合格者数26名	北海道大学 <b>占有率 50.0%</b> 日建学院合格者数 11名/合格者数22名
琉球大学 <b>占有率 50.0%</b> 日建学院合格者数 5名/合格者数10名	東京都立大学 <b>占有率 48.4%</b> 日建学院合格者数 15名/合格者数31名	東洋大学 <b>占有率 48.3%</b> 日建学院合格者数 14名/合格者数29名

※上記数値に無料の役務提供者及び、模擬試験だけの受講生は含まれておりません。※2023年1月末日の当社独自調べによる速報値です。(2022年度合格者占有率)



POINT  
05

建築士法改正後、1級建築士  
全国最年少合格者(20歳)も  
日建学院から輩出しました!



最短  
ストレート  
合格者続々!

あなたの答えの一番近くに

人材育成・資格取得の  
ご相談等は最寄校へ  
お気軽にどうぞ!

新宿校 TEL.03-6894-5800   
 池袋校 TEL.03-3971-1101   
 上野校 TEL.03-5818-0731   
 北千住校 TEL.03-6850-0120   
 新橋校 TEL.03-6858-4650   
 吉祥寺校 TEL.0422-28-5001   
 立川校 TEL.042-527-3291